

図解雑学 宗教から見る中国古代史 渡邉義浩(著) 2007年、ナツメ社

儒教・道教・仏教 中国の三大宗教

宗教	特徴			受容
儒教	宗教と捉えず			知識人層のみ
仏教	創唱宗教 (仏陀)	外来宗教	彼岸救済 (死後)	宋代、知識人層に禅宗、民衆に浄土宗
道教	民族宗教(創始者・起源が不明)	固有宗教	現世救済	民衆が基盤

- ・儒教は後漢で国家の正統;道教・仏教の挑戦を受けるが、跳ね返す
- ・北魏の太武帝は道教を国教に、隋の文帝は仏教で国家を治める 元はチベット仏教を尊崇
- ・三教は国家の保護をめぐり対立、「三武一宗の法難」4回にわたる仏教弾圧※ ※ 北魏の太武帝、北周の武帝、

・金代に三教を融合した「全真教」という道教ができる 南宋の朱熹が儒教を集大成した**朱子学**は、仏教・道教の影響を受ける 唐の武宗、後周の世宗

孔子の教えから宗教へ 儒教とは何か

①孔子ら古の聖人の書物に真理が記され、②書物を学ぶと人格が高まり、③実践すると天下泰平という信念 宋代の朱子学は、無神論的な性格が強い ⇔ 唐以前(古代)は宗教性が高い

- ・漢代は**天人相関説**(天子の善政・悪政に応じ、天が賛美・譴責) ← 賛美は「**瑞祥**」鳳皇・黄龍で 天は主催者、超越的存在者;天子の支配を支え&批判
- ・漢代は経書とともに、緯書(孔子の未来予言)を重視 孔子は500年以上先に漢の成立を予感、言祝いで『春秋』を著した超越者 孔子を神格化、宗教性!! 仏教・道教と、三教(さんぎょう) 論争・三教合一論

福祿寿を祈る 道教とは何か

- ・福(子宝)・祿(財産)・寿(長生)をもとめる現世救済
- ・巫術(精霊や死霊の教えを聞く)、鬼道(幻術や妖術)を基盤に、
 - + 墨家、儒家、老荘道家 + 中国仏教の教理・儀礼
 - =**道(タオ)**宇宙と人生の根源的な真理と一体になるのが理想
- ・5世紀の北魏、**寇謙之が新天師道** 教理・儀礼・神学を整え、**北魏の太武帝**が国教化 → 唐代に全盛
- ・宋代、「民衆道教」、三教合一、**白蓮教**ら民衆結社 元末の白蓮教徒の乱、清中期の嘉慶白蓮教徒の乱



国家に承認された「教会道教」

新天師道の流れの**正一教**、金代の全真教(王重陽)

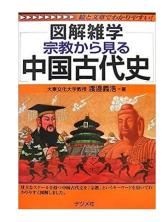
中国への同化に努める 中国仏教の特徴

・漢訳仏典、「**道**」の宗教に変容 東晉までは、悟り・修行の筋道も「道」と表現 …… 仏教は「道教」、仏教者は「道士」

・仏教学は、<u>儒教経典の解釈学の方法論</u>が使われ、400の**偽経**(ぎきょう・中国オリジナル) ※インドに回帰せず **儒教・道教と一致する「道」の宗教**として、三教のなかで優位をめざす=「**仏道**」の布教

・「仏道」とは、**鳩摩羅什の弟子・僧肇**(そうじょう)の**現実即真実** 「道は遠くになく、どこでも真理は体得できる。聖人は遠くなく、道を体得すれば聖人だ」

・天台宗「諸法実相」すべての事実のありのままのすがた ショホウジ・ッソウ 華厳宗「法界縁起」あらゆる事物はたがいに縁となり融合する ホッカイエンギ 禅宗「平常心是道」ふだんの心がそのまま悟り ~イジョウシンコレミチ



図解雑学 宗教から見る中国古代史

渡邉義浩(著)

2007年、ナツメ社

→ 魏晋南北朝時代における仏教・道教

格義仏教 仏教の伝来と訳注

・後漢は儒教一尊、後漢が滅亡し三国時代へ 道教は 太平道・五斗米道ら原始道教、仏教は 呉で仏典翻訳のみ

仏図澄・鳩摩羅什が、五胡十六国の君主に保護され、隋唐に全盛期

・インド文化を背景とする仏教は、儒教一尊の漢代に普及せず ※ 思想的背景の未成熟 仏教の下地:

玄学として復興した老荘思想は、仏教と親和的;老荘思想を媒介に浸透 = 格義仏教 西晉末の**竺法雅**は、老荘「無」の思想により、般若経「空」を解釈 ← 道安の批判

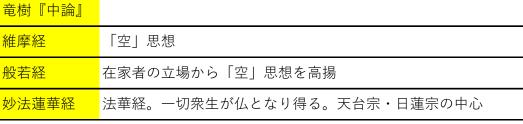
仏図澄と鳩摩羅什 五胡の君主と仏教

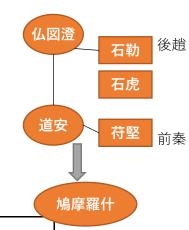
・仏図澄 亀茲クチャ→カシミール→310洛陽羯族の石勒(後趙)に、殺戮の非を諭し戦地で予言

・石勒の後嗣 **石虎**に、漢人**王度**が、仏教への反対を唱える 石虎「<mark>朕は西方の蛮族。仏は西方の神</mark>。胡族・漢族とも仏教信仰を許す」

・仏図澄の弟子・**道安**が、前秦の**苻堅**に「鳩摩羅什を呼べ」と説得

竜樹ナーガールジュナの般若教学を伝え、仏教経典を翻訳した





格義仏教を超えて 仏教の受容

- ・仏図澄の弟子 **道安**は、襄陽→長安(前秦)、鳩摩羅什をよぶ
 - 仏 仏教者に「釈」姓を名乗らせ、釈道安
- 法 格義仏教 (老荘の無を媒介) を批判、経典に序文をつけ、**経録(経典目録)** 大乗・小乗の区別なく、翻訳経典に「**序文**」を付し、**真経・偽経**を区別
- 僧 律部を研究、受戒の法を整備、仏(悟った人)法(教え)僧(学習者)の三宝を定める
- ・道安の弟子・**慧遠**エオン は、襄陽→廬山、鳩摩羅什との往復書簡で疑問点の正す 白蓮宗の祖(阿弥陀仏像のまえで、念仏実践の請願) **南朝**

『沙門王者不敬論』<u>仏法を王法の外</u>に、世俗と関わらず、純粋な宗教に

1

北朝

・北魏の**法果**がかは、北魏の**太祖道武帝=如来**(正統化)、沙門も礼を尽くすべき 北魏宗室が仏教化、<u>北朝の仏教は 仏=皇帝</u> → 造寺・造像、大法会〔国家仏教〕

北魏の華北統一/道教の国教化と廃仏

・北魏は、**文化で劣位** → 支配の正統化には、儒教より仏教が有利

世界宗教の普遍性 : 胡漢融合 (ほかの胡族、漢族)

うちつづく戦乱 :輪廻転生が、民衆に浸透

太武帝

・太祖道武帝が仏教保護、太宗は民衆強化を僧侶に託す(隋、日本の国分寺)

・太武帝が 439年、華北統一 / 太武帝は廃仏し、寇謙之の新天師道(道教)を国教化

寇謙之

・華北統一には、漢人官僚の官僚制度・国家政策が必要 **漢人貴族の崔浩!!** 崔浩は 母方の信仰 寇謙之に師事し、太武帝に推薦(寇謙之も、政治計略を崔浩に頼る)

崔浩

老子の神格化 寇謙之の新天師道の教え

- ・寇謙之が宗教的体験を吹聴
- ① 嵩山で、太上老君(神格化された老子)から、天師の位をうける
- ② 太上老君の玄孫 李譜文リフブンが降臨、「北方の太平真君をたすけ、道教を広げよ」
- ・太武帝は「太平真君」と改元、442年 道教の儀礼で符籙(道士の免状)を受ける

太武帝は道教君主、廃仏 ← 漢人貴族で「儒教国家」をめざす崔浩

新天師道により、仏教を退ける

寇謙之は廃仏に消極的

000

新天師道は、仏教の影響あ

・崔浩の国史が、**北魏の祖先(鮮卑)の夷狄ぶりを直書**

太武帝は、崔浩の縁戚(范陽盧氏・太原郭氏・河東柳氏)をほろぼす …君主権力の拡大

・北魏の文明皇后・孝文帝は、儒教による個別人身支配

494年 平城から洛陽に遷都、姓族分定(胡族の家格を確定)→523年 六鎮の乱

胡漢のバランスを保つ 鮮卑の復権と『周礼』尊重

- ・西魏 北周の**宇文泰**は、鮮卑に復姓、府兵制 → 隋唐建国者 内政は、『周礼』に基づく官制 → 三省六部
- ・宇文泰を継ぐ**北周の武帝**は、仏教を弾圧「<u>朕は五胡でない、仏教を敬わない</u>」(鮮卑=胡=仏教にこだわらない) 北魏の漢化政策が行き過ぎ、宇文泰がバランスをとり、胡漢が融合

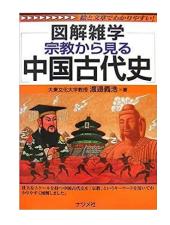
捨身をくり返す皇帝 梁の武帝の仏教崇拝

- ・慧遠エオン 『沙門王者不敬論』 <u>仏法を王法の外</u>に、世俗と関わらず、純粋な宗教に
- ・南朝梁の武帝は、在位の後半、仏教を内面的に理解、「**皇帝菩薩**」

 ⇔ 北魏の「皇帝は如来」は外面的な利用
- ・みずから「三宝の奴」とし、**同泰寺**ドウタイジに**捨身**仏法僧の三宝に供養するため身を捨てて奴隷になる(**阿育王経**による)
 改めて即位し大赦・改元し、更新された世界を被支配層と享受、結びつく ※治国の方法

国	仏教家	皇帝の行動
北魏	法果「皇帝は如来」	大規模な石窟寺院を
	仏と皇帝を同一視し、支配に直接利用	支配に利用
南朝梁	慧遠エオン「沙門は王者を敬さず」	武帝は捨身・大赦改元で
	仏教を内面的に理解	人々と結びつく

⇔寇謙之の新天師道 漢人貴族の崔浩



図解雑学 宗教から見る中国古代史

渡邉義浩(著)

2007年、ナツメ社

→ 隋唐における仏教・道教

儒教・道教への失望/隋の宗教政策

・隋の文帝は、儒教祭祀で即位(禅譲・九錫・南郊祀天・籍田)

20年後、601年の詔で、儒教保護を転換

- ① 儒教教育を補助せず:太学・四門学・州県学の廃止
- ② 全国に仏舎利を分骨 → 位
 - → 仏教が国家支配の中心



- ・(隋が滅ぼした)北周の武帝は、仏教・道教を廃し、通道観(儒教)を建設しかし道士 張賓ヒン が関与し、道教っぽい
- ・隋の文帝は **通道観**を廃し、都の**東に<mark>大興善寺(仏教) 西に玄都観(道教)** 大興善寺(仏教)がはるかに大きく、道教は劣る</mark>
- → 茅山派の道士は、隋唐革命の協力



「仏教国家」としての隋

・仏教の功徳により、統治の円滑化をめざす

<u>あくまで統治手段</u>、<mark>護国思想や経典がない</mark>



梁の武帝の捨身・**則天武后『大雲経**』の思想

- ① 二十五衆 …民衆の教化
- ② 五衆主 …大興城(首都)の高等教育機関、1経を専門的に学ぶ
- ③ 舎利塔 …全国109箇所
- ・天台宗の智顗は、『法華経』ら漢訳仏典を整理(五時八教」ジ ハッキョウ)
- ・反権力性をふくむとされた**信行シンギョウ 「三階教**」は弾圧

唐室の道教保護

<u>北朝</u>の寇謙之 新天師道(北魏の**太武帝**が国教化)

・南朝系の道教 茅山派の道士 王遠知オウエンチ は隋末、李淵に接近

「太上老君(老子・李耳)が夢で、李淵の祖先だ」 → **祖先崇拝としての「道先僧後**」

・高宗は、老子を「**太上玄元皇帝**」、

官僚は『道徳経(老子)』を学習、科挙の明経科に「老子策」を出題

- ・もっとも老子を崇拝したのが玄宗、**茅山派の道士 司馬承禎**ジョウテイ の努力 玄宗に法籙 ホウロクを与え「道士皇帝」とし、道観を創建させた ※ 楊貴妃とも道観で出会う
- ・玄宗が『道徳経』に注釈をつけ家々に一冊、老子の誕生日を国家休日 →**道教がほぼ国教**
- ・唐の武宗が 会昌 エショウの廃仏…… 円仁『入唐求法巡礼行記』のみが伝える

仏教の全盛期

・帝室に保護された道教に対し、仏教は民衆から支持される

「邑会」ユウカイ:仏教信仰の地方組織で、僧侶・在家信者をむすぶ

法蔵が華厳宗を集大成(中国独自の狭義)



・**玄奘三蔵が法相宗を開く**(インドの後期大乗仏教)

・達磨の禅宗「不立文字」「以心伝心」もインド回帰

三蔵:経蔵・律蔵・論蔵に精通

玄奘は、明代の呉承恩『西遊記』の題材

仏教を利用/則天武后と『大雲経』

・武周革命で、則天武后が利用したのが『大雲経』

インドの曇無讖 ドンムシン が五胡の北京で翻訳;仏が浄光天女に「女性として国王になる」

薛懐義 セツカイギが『武后登極讖疏』を著し、即位を支える

韋后も仏教を利用

女性の神格が多い仏教は利用され、痛手を受ける

- ・神都(洛陽)の竜門に石窟、毘盧遮那仏(東大寺のモデル)、衆ごとに大雲寺 太宗「道先僧後」を、則天武后「僧先道後」に改める
- ・道教(老子)を尊崇した玄宗が、「道先僧後」にもどす